



秋田県立大曲支援学校 教育プラン

令和5年度～令和9年度

I 学校の現状と課題 ・ 学校を取り巻く将来の状況の予測

1 学校の現状と課題

(1) 児童生徒状況

児童生徒数は、平成28年度以降、110名前後で微増減している。近年、肢体不自由を併せもつ児童の入学が増え、令和5年度は2年ぶりに医療的ケアを必要とする児童も入学した。訪問指導の対象生徒は1名である。地域の小・中学校からの入・転学者には、不登校傾向のある児童生徒や発達障害のある児童生徒も多く、多様な実態に対応する指導力が求められている。また、本校は、県南で唯一、寄宿舎を併設している学校であるが、舎生数は減少傾向にある。

(2) 特色ある教育活動[「地域が教室」～伝統の継承と発展～]

昨年度、創立30周年を迎え、地域への感謝の気持ちを育む教育活動に取り組んだ。改めてこれまで培ってきた伝統的な活動の継続やコロナ禍での持続可能な交流の在り方を検討しながら実施している。また、中学部のクリーンアップ活動や高等部作業学習ビルクリーニング班による窓拭きなどの地域貢献活動を実施している。

居住地校交流については、小学部の約7割の児童が実施しているが、中学部になると約2割に減少する。学校間交流については、小・中学部で近隣校とそれぞれの目的をもって交流及び共同学習を実施している。また、高等部では、作業学習を通して一部の作業班の生徒が地域の高等学校の生徒との同世代交流を実施している。

小・中学校、高等学校との交流及び共同学習の実施に当たっては、単発にならないように、継続的・発展的な展開が望まれる。また、卒業後の豊かな生活を目指し、生涯学習への意欲を高めるためには地域の理解が求められるが、まだまだ課題は多い。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

- (1) 発達障害や精神障害等のある児童生徒、不登校傾向のある児童生徒等の増加が予測される。重度・重複障害のある児童生徒を含めた多様化に応じた、社会に開かれた教育課程の編成が急務である。一人一人の教育的ニーズの適正な把握、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用、関係機関との連携が必要である。また、ICTの効果的な活用、寄宿舎における生活指導の充実等が望まれる。
- (2) 地域に貢献できる学校、地域から必要とされる学校を目指し、地域に根ざした教育活動を推進する必要がある。地域貢献活動の推進と地域の資源や教育力の活用という学校と地域の双方の取組の充実が望まれる。また、居住地校交流や学校間交流、同世代交流を教育課程に位置付け、計画的・組織的・継続的に実施していく必要がある。さらに、本校における教育活動について、地域に向けて情報発信することも望まれる。
- (3) キャリア教育の充実を図るため、「つながりプラン」を基にした学部間での学び合いのある実践的・体験的な学習活動の推進が望まれる。また、中学部段階からの職場見学、職場体験等による実践的職業教育の取組の充実を図り、さらに、職域開拓や企業と連携した職場実習等の充実を図ることで、一般就労する生徒の増加が期待できる。また、卒業後も豊かな生活ができるように、音楽や美術、体育、部活動、余暇活動の指導等の充実を図り、生涯を通じて学ぼうとする意欲や態度を養っていくことが必要である。
- (4) 今日の課題に対応するため、家庭、寄宿舎、関係機関等と連携した生徒指導の充実が望まれる。また、情報化社会において、スマートフォンの普及に伴うSNS上のトラブル等に対応するため、情報モラル教育を推進する必要がある。
- (5) 地域の幼稚園・保育所等、小・中学校、高等学校からのセンター的機能に係る要請は、増加傾向にある。本校の専門性を生かしたセンター的機能の強化が必要である。また、地域の小・中学校、高等学校等での障害理解授業や職員を対象とした研修会を実施するなどして、地域における共生社会の実現に向けた取組を充実させる必要がある。

Ⅱ 目指す方向性 ・ 学校像や児童生徒の姿

1 学校像

「瞳かがやき、笑顔あふれる学校」

- (1) 地域に根ざした学習活動、地域の人々との日常的な交流活動
- (2) 体験的・実践的活動を通したキャリア教育の充実
- (3) 児童生徒の主体的を育む学校環境整備

2 児童生徒像

一人一人の障害の状態や発達段階、特性等に応じた知識、技能及び態度を身に付け、積極的に社会参加、職業自立できる児童生徒を目指す。

- (1) じょうぶな子 健康で、安全な生活ができる児童生徒
- (2) すなおな子 明るく、仲良く、礼儀正しい児童生徒
- (3) がんばる子 進んで取り組み、最後までやりぬく児童生徒

Ⅲ 具体的な目標 ・ 取組 ・ 推進指標

1 社会に開かれた教育課程の実現に向けた一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成と授業づくりの充実

- (1) 地域での教育活動における成果の検証と教育課程への反映
- (2) 「自ら考えて行動する力」を育むための対話的な学習活動を通した授業づくりの強化
- (3) ICTの活用意図を明確にした効果的な課題解決型学習や家庭学習の促進

2 卒業後を見据えたキャリア教育の充実と生涯学習の拡充

- (1) 学部間の連携「つながりプラン」を基盤にした計画的・系統的な学習活動の充実
- (2) 「特別支援学校生の職域拡大・職場定着促進事業」推進校としての、教育課程や職業教育に係る授業づくりを通した職業教育の充実
- (3) 関係機関と連携した青年学級（ふれあいハッピースクール）の実施と地域移行の促進

3 防災教育の促進と安全で健康な生活の確立

- (1) 家庭や地域と連携した実践的な防災訓練の実施
- (2) 寄宿舎・各学部における規則正しい生活習慣の確立と保健教育の充実
- (3) 保護者、医療等と共通理解に基づき、組織的に対応する医療的ケアの実施
- (4) SNS等を安全に活用するための早期からの情報モラル教育の充実

4 教職員の専門性の向上によるセンター的機能の強化

- (1) 専門性を高める研修の充実と具体的な指導・支援方法の発信
- (2) 小・中学校との協議による連続性のある障害理解授業づくりの実施